

## 愛川町立田代小学校

研究テーマ：表現する力を育てる授業づくり

### 1 実践の目的

本校では平成26年から平成30年度までの5年間、国語科の研究を行ってきており「表現する力の育成～書く活動を通して～」をテーマとし、校内研究に取り組んできた。書く力を育成する授業づくり、そしてその授業で身につけた書く力を他教科で応用するという目標をもって研究を進めた。そして、平成31年度・令和元年度より、算数科を研究科目とし、主題を「表現する力を育てる算数科の授業づくり」と設定し、算数科の中での表現する力に絞って4年間研究を進めてきた。

今年度は今までの取り組みを継承しつつ、書くこと以外の表現する力、表現力を育成するには土台となる学級経営が大切であることなどを踏まえ、さらに範囲を広げて全教科全領域とし、テーマを「表現する力を育てる授業づくり」として研究をスタートしたところである。書く力だけではない表現する力を様々な場面で育成すること、そのための学級経営、表現しやすいクラスの雰囲気づくり、児童が見通しを持つことができる授業づくりなどに焦点を当て、全学年で共通理解を図りながら研究を進めた。

### 2 実践の内容

#### (1) 校内研究の体制

本校は各学年単級の小規模校である。小規模校の利点を生かしながら研究を充実させるために、次の3点を共通理解し、研究主題に迫っていこうと考えた。

#### ①授業研究を基本に

全学級で授業公開を基本とした。今年度より全

教科全領域での取り組みということで、各教師が児童の実態やそれぞれの個性や持ち味を生かし、様々な教科でチャレンジを行っている。その中で授業の質を高め、テーマについての共通理解や子どもの学ぶ姿から児童理解を深めている。

#### ②研究協議の充実

授業公開後の研究協議では、付箋紙を用いたグループ協議の形式を取り入れている。授業を参観しての様々な気づきを「表現したくなる環境づくりの工夫」「見通しを持たせるための工夫」の2つの視点に絞って話し合い、共有する中で、授業を見つめ直し、テーマについて深める機会としている。研究協議の最初に授業者の自評の時間を設け、グループ協議後は各グループでまとめた模造紙をお互いに見合い、質問も交えながら全体で共有し、全職員が学んだことを次の授業に生かせるようにしている。

#### ③学習指導案・学びのプラン

学習の流れ、単元の見通しを持っていなければ表現する活動にも前向きには取り組めない。そこで、今年度校内研究の講師として招聘している白梅学園大学教授の三藤敏樹先生から紹介していただいた「学びのプラン」を活用している。児童に単元の流れを示したもので、この単元で身につける力、各時間で行うことやめあて、そして振り返り

を書くスペースをまとめたものを児童に配付している。それを受けて、学習指導案も単元計画をメインとしてコンパクトな形で書く形式を取り入れた。児童だけでなく教師もその単元を見通し、児童につけたい力をしっかりと押さえることができる。その上で、表現させたい場面やタイミング、意図を改めて考えるようにしている。



(2) 校内研修会の様子

スクールカウンセラー米谷しのぶ先生や横浜国立大学の青木弘先生、白梅学園大学の三藤敏樹先生による講演・指導助言



教科の指導や ICT の活用などの自主研修会



(3) 研究授業・研究協議の様子  
全学級が公開する授業（6年生）



#### (4) ICT機器の活用

タブレット端末、TV を活用した授業



### 3 実践の成果

#### (1) 教師の変容

- 様々な教科の表現について考える機会となった。
- 表現することのできる土壌をつくるのが大切だと気付いた。自ら表現したいと思う題材を選ぶようになった。
- 日常生活でも表現を大切にできるように指導をするようになった。

#### (2) 子どもの変容

- 発表の仕方、発表の聞き方を意識するようになってきた。
- 以前よりも意思表示ができるようになってきた。
- ノート上で考え方を表現する力が向上してきた。

### 4 今後の展開

#### (1) 今後の研究の方向性

- 各学年、全教科における表現について研究を深めていく。
- 学校生活の学びが身に付く、学級経営をした上での教科の研究。

#### (2) 残された課題への対応

話し方や聞き方など児童に意識させたいこと、全校で統一できることなどを挙げていき、全体で共有する。

また、本校の実態に合わせて、個に応じた指導方法についても研究していく。